資料８

沖縄７　ライフステージに応じたがん対策（小児・AYA分野）

中間アウトカム

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、セカンドオピニオンを行う				
①小児がんでセカンドオピニオンを行った割合 ②AYA世代の患者でセカンドオピニオンを行った割合 ③患者体験調査小児問12　セカンドオピニオンを受けたと回答した人		小児 19.2% 成人 19.5% AYA 19.2%	小児 NA 成人 22.3% AYA NA	
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、quality indicatorを用いた医療の質評価を行い、公開する				
小児がん拠点病院QI ①指標14　化学療法関連死亡率 ②指標15　術後３０日以内の手術関連死亡率 ③指標16　同種造血幹細胞移植後100日以内における合併症関連死亡率		NA NA NA	0% 0% 9.5%	
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、適切な緩和ケアを行う				
①小児がん拠点病院QI指標18　緩和ケアチーム介入率 ②小児問20-5、成人問20-6　つらい症状にはすみやかに対応してくれたと思うと回答した人		小児 83.3% 成人 75.0% AYA 72.0%	0% 小児 NA 成人 80.1% AYA NA	
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、アドバンスケアプランニング(ACP)を行う				
ACPを行った割合				
希望者には、在宅療養・看取りやホスピス病棟での看取りを行う				
希望者に対して実際に在宅看取りやホスピス病棟での看取りを行えた割合				
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、治療開始前に治療による生殖機能への影響に関して組織的に説明を行う				
①生殖医療に対して組織的な対応ができている専門医療機関の割合 ②小児問13、成人問16　治療開始前に治療による生殖機能への影響に関して医師から説明があったと回答した人		小児 53.8% AYA 51.6%	小児 NA AYA 31.1%	

中間アウトカム

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
適切な情報提供を受け、状況に応じた、安心・安全・適切な医療を受けられている				
患者体験調査(%)（2018年）	小児問10、成人問10　初診から確定診断までが1 ヶ月未満であったと回答した人	小児 74.3% 成人 71.5% AYA 66.2%	小児 NA 成人 72.7% AYA NA	NA
	小児問11、成人問11　確定診断から治療開始までが1 ヶ月未満であったと回答した人	小児 80.6% 成人 62.2% AYA 52.5%	小児 NA 成人 66.4% AYA NA	NA
	成人問20-10　「これまでの治療に納得している」と回答した患者の割合　（世代別切り出し）	成人 77.3% AYA 83.5%	成人 85.4% AYA NA	

最終アウトカム

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
適切な医療を受け、尊厳を持って療養生活を送れている				
がん情報サービス「がん登録・統計」	小児がん患者の5年生存率	別紙	別紙	

全ての希望した患者に対して、適切な妊孕性温存療法を行う			
①AYA世代未受精卵凍結件数 ②小児　卵巣組織凍結件数 ③小児問14　妊よう性温存のための処置を行ったと回答した人	NA NA 小児 7.2% AYA 8.9%	4件 1件 小児 NA AYA 0.0%	
全てのフォローアップ患者に適切な時期に「がん治療後の生殖医療」についての説明を組織的に行う（例長期フォローアップのためのチェックリストを作成し、担当内科医にも配布する）			
①必要な患者へ、実際に「がん治療後の生殖医療」についての説明を行えた割合			
晩期合併症について、適切な医療を行う			
晩期合併症について、適切な医療を行えた患者の割合			
すべての小児およびAYA世代の患者に対して、長期フォローアップを組織的に行う			
長期フォローアップを組織的に行えた患者の割合			

妊孕性温存療法、がん治療後の生殖医療、晩期合併症、長期フォローアップに関する体制が整備されている				
必要な患者へ、実際に妊孕性温存療法を行えた割合（2017年）	①AYA世代　未受精卵凍結 ②小児　卵巣組織凍結	NA NA	8.3%（4/48.2）（未受精卵子凍結件数）/（婦人科がん以外の未婚女性がん患者）） 14.3%（1/7）（卵巣組織凍結件数）/（白血病を除く女児のがん）	
	必要な長期フォローアップが受けられている患者の割合			

	AYA世代のがん患者の5年生存率	別紙	別紙	
患者体験調査(%)（2018年）	小児問25、成人問23　がんの診断・治療全般に関する総合的な評価の平均点	小児 8.4点 成人 8.0点 AYA 7.8点	小児 NA 成人 8.4点 AYA NA	NA
	成人問35-7　「現在自分らしい日常生活を送れていると感じる」と回答した人(世代別)	成人 70.5% AYA 66.8%	成人 78.3% AYA NA	NA

院内学級で勉強が続けらえれるようにする				
小児がん拠点病院QI ①指標19　院内学級への転籍率	NA	71.4%		
原籍校への復学をスムーズに行う				
小児がん拠点病院QI ①指標20　復学カンファレンス実施率	NA	100%		
進学や就労に対して、適切なタイミングで相談を行う				
①小児問33　患者の治療中に、職場や仕事上の関係者からケアと仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと思うと回答した人	58.9%	NA		
すべての小児およびAYA世代の患者や家族を、小児がんに対応可能ながん相談支援センターに全例紹介する				
①小児がんで、がん相談支援センターを利用した割合 ②AYA世代の患者で、がん相談支援センターを利用した割合				
小児およびAYA世代の患者や家族、それぞれのための患者サロンやピアサポートが組織的にできるようにする				

社会の一員として尊厳を持って暮らしていられる				
患者体験調査(%)（2018年）	小児問39　治療中に、学校や教育関係者から治療と教育を両方続けられるような配慮があったと思うと回答した人	76.6%	NA	
	小児問40-2、成人問30-2　がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思うと回答した人	小児 39.7% 成人 47.7% AYA 39.5%	小児 NA 成人 52.6% AYA NA	

2（5）ライフステージに応じたがん対策（高齢者）

施　策

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
【高齢者】すべての専門医療機関では、「高齢者のがん薬物療法ガイドライン」、「高齢者がん医療Q&A 総論」、および「高齢者がん医療Q&A 各論」に基づいた医療を行う				

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
【高齢者】「高齢者のがん診療における意思決定支援の手引き」等を用いて意思決定を行う				
「手引き」を用いて意思決定を行った高齢がん患者の割合				
がん相談支援センターは、高齢がん患者が抱える相続、遺言、成年後見人等の選任に関する問題に対して、関係機関との連携による相談支援を行う				

中間アウトカム

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
【高齢者】高齢のがん患者のガイドラインに則った治療が行われている				
医療者調査	ガイドラインに基づいた治療が実施されている割合			
【高齢者】ライフステージに合わせた適切な情報提供が行われ、QOLの観点を含めて意思決定支援体制が整備され、支える家族の悩みや負担が軽減している				
	アドバンスドケアプランニングの実施数			
患者体験調査(%)（2018年）	成人問30-2　家族の悩みを相談できる場所があると思う患者・家族の割合	47.1	52.6	NA

最終アウトカム

指標番号	指標	全国	沖縄	二次医療圏
【高齢者】ライフステージに合わせた適切な情報提供が行われ、QOLの観点を含めて意思決定支援体制が整備され、高齢のがん患者のガイドラインに則った治療が行われている				
患者体験調査(%)（2018年）	成人問20-10　「これまでの治療に納得している」と回答した患者の割合	77.4	85.4	NA
	成人問35-7　自分らしい日常生活を送れている患者の割合	70.1	78.3	NA
	高齢者の５年生存率			